

船舶事故調査報告書

平成23年2月24日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成22年7月7日 12時05分ごろ
発生場所	岡山県倉敷市水島港上水島南東方沖 <small>かみみず</small> 水島港西1号防波堤灯台から真方位187° 1,250m付近 （概位 北緯34° 27.5′ 東経133° 43.9′）
事故調査の経過	平成22年8月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 第十二 <small>きんりき</small> 金力丸、499トン 131628、多田海運株式会社 74.72m×12.50m×7.05m、鋼 ディーゼル機関、1,323kW、平成5年10月
乗組員等に関する情報	船長 男性 60歳 四級海技士（航海） 免許年月日 昭和51年7月9日 免状交付年月日 平成21年6月11日 免状有効期間満了日 平成26年12月20日
死傷者等	なし
損傷	船底に擦過傷
事故の経過	本船は、船長ほか5人が乗り組み、コークス1,552tを積載し、船首約3.07m、船尾約5.01mの喫水で、平成22年7月7日11時50分ごろ、水島港南方沖の検疫錨地を抜錨して同港内に向かった。 船長は、水島港への入港が約9年ぶりで入港経験も2～3回しかなかったため、6日17時ごろ検疫錨地に錨泊したのち、水島港への入港に備えて新たに購入した海図などで水島港への入港経路を調査し、同錨地から東方にある上濃地島 <small>かみのじ</small> と六口島 <small>むくち</small> の間に向けて東進して、上濃地島の南方から水島港港内航路南口に入航することになっていた。 船長は、抜錨時から手動操舵につき、他の乗組員を船首尾甲板で入港配置に付け、1.5海里レンジとしたレーダーのほか電子海図及びGPSプロッターを作動させ、予定どおり上濃地島と六口島の間に向けて東進するつもりでいたところ、錨地の北方にある上水島とイザロ濃地島 <small>のじ</small> を上濃地島と六口島であると見間違え、上水島とイザロ濃地島の中央付近に向く針路としたが、ジャイロコンパスなどで針路を確認せず、機関を微速力前進として低速力で北進を開始した。 船長は、上濃地島と六口島に向けて東進しているものと思い込み、針路を確認せずに上水島とイザロ濃地島間の浅所に向けて航行し、12時0

	5分ごろ、水島港西1号防波堤灯台から真方位187° 1,250m付近の浅所に乗り揚げた。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風力 2、視界 良好、気温 約28℃ 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期、潮高 約1.1m	
その他の事項	<p>船長は、抜錨後、VHFを16チャンネル(ch)で水島ポータラジオを呼び出して12chに切り替え、本船が着岸する旨を連絡したが、同交信を終えたのちに16chに戻さず、12chのままにしていた。</p> <p>備讃瀬戸海上交通センターでは、本事故前に、本船に対し、VHF16chにより浅所に向かっている旨の情報提供を行ったが、本船のVHFが12chとなっていたので、本船では同情報を受信することができなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、水島港検疫錨地から同港内に向けて北進中、船長が、同錨地の東方にある上濃地島と六口島との間に向けて東進するつもりでいたところ、同錨地の北方にある上水島とイザロ濃地島を上濃地島と六口島であると思い込み、ジャイロコンパスなどで針路を確認しなかったことから、上水島とイザロ濃地島との間の浅所に向いていることに気付かずに航行し、同浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、水島港検疫錨地から同港内に向けて北進中、船長が、同錨地の東方にある上濃地島と六口島との間に向けて東進するつもりでいたところ、同錨地の北方にある上水島とイザロ濃地島を上濃地島と六口島であると思い込み、ジャイロコンパスなどで針路を確認しなかったため、上水島とイザロ濃地島との間の浅所に向いていることに気付かずに航行し、同浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。	